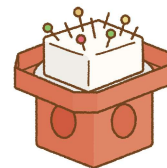




針供養（はりくよう）

「針供養（はりくよう）」とは、折れたり、錆びたり、曲がったりして使えなくなった針を豆腐やこんにやくなどに刺して供養する行事です。針供養は、東日本では2月8日、西日本では12月8日に行うところが多くみられましたが、地域に関わらずどちらか一方の日に行うところや、両日行うところもあります。この日付の違いには、背景にある「事始め・事納め」の捉え方が影響しています。「事始め（ことはじめ）・事納め（ことおさめ）」とは、コトノカミという神様を祀るおまつりで、もともと「事」という字は、神様への祈りの文である祝詞を入れた器をつけた木を高く捧げて祖霊をまつという意味の「史」と、吹き流しを組み合わせた形で、「まつり」を意味していました。

針仕事は女性にとって重要な仕事だったため、折れた針や古くなった針に感謝の気持ちを込めて柔らかい豆腐やこんにやく、もちに刺し、川に流したり、土に埋めたり、神社に納めたりして供養し、裁縫の上達を願いました。



「氷の芸術」猪苗代湖のしぶき氷

厳冬期になると観られる「しぶき氷」。耳慣れない方も多いかと思いますが、全国でも数カ所しか観ることのできない自然が織りなす氷の芸術です。冬の風物詩といえば、「樹氷」が有名ですが、しぶき氷は、冬の厳冬期に観られる自然現象で、海岸や湖岸で波しぶきが強風によって樹木の枝や岩などに付着して、氷点下の気温でそのまま凍り付いてしまう珍しい現象となって樹氷にも劣らない美しい世界を楽しむことができます。「しぶき氷」は、漢字で書くと「飛沫氷」となります。樹木の枝に纏わりついた氷の衣装を着て、特に晴れた日にはキラキラと輝いて、正しく氷の芸術と呼ぶにふさわしい風景を奏でてくれます。しぶき氷が発生する条件としては、海面や湖面が冬でも凍らない沿岸部で、波しぶきが上がる海岸あるいは湖岸、もしくは強風による水の巻き上げがある岸辺で、すぐに凍ってしまうような厳しい寒さの地域です。

しぶき氷は、全国的にも珍しく、しぶき氷が観られるスポットとしては、支笏湖（北海道）、洞爺湖（北海道）、猪苗代湖（福島県）、中禅寺湖（栃木県）、琵琶湖（滋賀県）などがあり、厳しい冬の寒さの中、条件が揃うと観賞できます。福島県の猪苗代湖のしぶき氷スポットとしては、天神浜付近や浜路浜付近など何カ所か観られるようです。しぶき氷が観られる時期は、その年の気候にも左右されますが、例年寒さの厳しくなる1月上旬から2月中旬頃が見頃。天神浜の雪で白く染まった雄大な磐梯山を背景に青い猪苗代湖と凍てつくしぶき氷。このほか、湖面では流水や「御神渡り」に似た氷の隆起などのさまざまな自然の造形物を見ることができます。

ぜひ一度足を運んでみては如何でしょうか？

住所 耶麻郡猪苗代町大字中小松天神浜

お問合せ 猪苗代観光協会 0242-62-2048



FROM-ZERO 通信は弊社のお取引先の皆様に毎月配布させていただいている情報誌です。



株式会社 オフィスゼロ

〒963-0201 福島県郡山市大槻町字下町 128

<http://www.office-0.co.jp/>

TEL 024-962-4709 FAX 024-962-4710



Web サイト スログ